

米沢街道 笹木野宿

伝承の地・もののふの郷を巡る

⑤大原神社

創建年代は不明。以前は笹木野字館地内(旧野田中学大杉の所)にあって三寶荒神を祀っています。奈良時代既ここは銅や鉄を造る「かまど」があったというので火の神を祀ったと伝えられます。その後、富国製糸場開設の際(大正四年)、工場主両角幸助氏が千坪を寄進し現在地に遷宮。旧社地には一本の老杉が残っていましたが、先頃の原発事故の後、除染のため無残にも伐り倒されて今は大きな切株が残るのみです。



伊達家六代基宗が康永二年(1343)建立したと伝えられる佛眼寺が、伊達政宗の岩出山～仙台移封とともに移った後、上杉の臣上境氏が戦死した母を弔うため慶長三年(1598)米沢東源寺の末寺として開山。当時は野田小の所にありましたが、笹木野大火で焼失後元禄四年(1691)に現在地に再建されました。

⑥般若山仏母寺

伊達家六代基宗が康永二年(1343)建立したと伝えられる佛眼寺が、伊達政宗の岩出山～仙台移封とともに移った後、上杉の臣上境氏が戦死した母を弔うため慶長三年(1598)米沢東源寺の末寺として開山。当時は野田小の所にありましたが、笹木野大火で焼失後元禄四年(1691)に現在地に再建されました。



⑦新発田藩陣屋跡

越後新発田藩(溝口家)の飛地で、寛政元年(1789)から明治三年まで陣屋があり、善政を布き民に敬われました。実際の仕事は地元の大庄屋吉野家が務めていました。現在も交番があるのは歴史を踏まえての事か。交番の後方には吉野家の屋敷があって、吉野御殿とよばれていました。



⑧本庄八幡

上杉時代の初め、福島城代本庄繁長が開いた本庄町には繁長の屋敷があり、先祖を祀った本庄稲荷がありました。また、繁長開基の舟場町長楽寺から繁長八幡を分祀したといわれます。本庄町の西側には足軽を住ませた桃木町があります。



④笹木野宿開基茂木家

大坂落城の後、豊臣の重臣、茂木某が一族と共に当地に下り、原野であった笹木野に宿場を開きました。米沢からの道は庭坂・笹木野・福島を通るようになりました。代々上杉家の信任篤く、数々の贈り物や系図もありましたが、火災で焼失しています。



開基の墓には初代の法名「清光院殿夏山浄雲大禪定門」が記されています。

③愛宕神社追分道標

明治の中頃まですぐ裏手にあった泉福寺の別当で、昔から生糸市が開かれ賑わっていました。ここは米沢街道と鳥渡山王道の分岐点で道標が二つ残っています。参道には多くの供養塔があります。



②小針地藏尊

「王老杉」の精霊と「おろす」との間に生まれた双子は、不義の児として二子塚に葬られ娘は南部の恐山に送られました。里人はこれを不憫に思い、おろすが精霊の袴の裾に付けた針が杉を伐ったときに落ちたという地に、地藏尊を建てて冥福を祈ったといわれます。この境内には、正応四年(1291)建立の大日如来の板碑があります。



①王老杉伝承の地

地図裏面参照



⑨佐々木戸館跡

この辺りでは最も古い館跡といわれます。八幡太郎義家が奥州平定後その家臣の佐々木戸某にこの地を支配させました。良質の湧水もあり最適の場所であったようです。現在は市の施設「児童センター」があります。



⑩富国製糸場跡

現在は沖電気の系列会社がありますが、ここには大正五年に開業の富国製糸場がありました。県の要請もあって長野県諏訪の製糸工場を誘致したもので、年間製糸量三万六千貫といわれました。昭和七年鐘紡、昭和十八年沖電気によって現在に至っています。



開業時の富国製糸場(両角家提供)

⑪日枝神社・猿内館跡

祭神は大山咋命で、加茂別雷神の父神であり日吉大権現ともいいます。日吉神社の使いは猿ということからこの地を猿内といたのでしょう。猿内館は、佐藤忠信に仕えたという安田備前守義徳が築いたといわれています。

